

CAPD最前線

今回のCAPD最前線は腎臓病患者さんの一貫した担当医師によるケアやクリニカルナビなど、海外からの最先端の医療の考え方を取り入れながらも、患者さんと医療スタッフのコミュニケーションなど基本をおろそかにしないことによって、患者さんとの信頼関係を綿密に築き上げている岡山中央病院をご紹介します。

主役である患者さんのために、 よりよい医療を目指して

岡山中央病院 副院長
谷合一陽 先生



岡山中央病院は2001年3月に民間の病院として全国で初めて地域医療支援病院の承認を受けました。地域医療支援病院というのは24時間体制の救急外来を持つほかに、外来患者さんの80%が地域の開業医やクリニックからの紹介患者さんであること、などのさまざまな決まりがあります。ほかにも医療従事者に講演会をおこなうなどの情報発信の場となり、地域的な医療の向上に貢献する役割を担っています。また入院施設や検査施設のない医院に対して患者さんのために病床を提供し、患者さんやそのかかりつけ医の先生方の支援や連携を目指した医療をおこなっています。

岡山中央病院が所属する鴻仁会グループは、在宅介護支援センターや訪問看護ステーショ

ンなど多数の施設を抱えています。その中核となるのが救急治療、急性期医療および入院治療や大きな検査を主とする岡山中央病院と、病院の外来患者さんを診療するセントラルクリニック、回復期リハビリとホスピスを主とする岡山中央奉還町病院で、3つの施設がそれぞれ機能分類して患者さんのケアに携わっています。CAPD患者さんの場合は、まず中央病院に保存期もしくはその前から通院し、透析導入の時期がくると入院、指導を受けています。そして、PD導入後はセントラルクリニックの透析外来に通われるそうです。

同院の副院長である谷合一陽先生にお話を伺いました。「地域医療支援病院として、透析に関してはHDやCAPDのデモンストレーションや講習会を地域内の先生方や医療スタッフ、患

者さんに向けておこなっています。医療経済面、在宅医療普及の面からみても、さらなる普及が期待されるCAPDの認識も、もっと広めたいと思っています」

大事なのは透析によって いかに患者さんが元気に 暮らせるかということ

岡山中央病院では、担当医師が病気の種類や状況によって途中で変わらずに、一貫して患者さんのトータルケアをおこなう方針を取っています。例えば、糖尿病の患者さんなどで腎機能に問題が見つかった患者さんには同じ内科医が最初から保存期、透析の選択から導入、その後の外来通院までを担当しています。「このように患者さんの経過にずっとかかわってケアを続